

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 元 年 12 月 10 日

事業所名 こどもプラス神埼教室

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1		4	・学習、運動のスペースは分けているが、もう少し広いと良い。 ・パーティションをいくつか用意したい。
	2	職員の配置数は適切である			5	・個別対応児童が利用する場合は人数を増やして欲しい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1		4	・バリアフリーとまではいかないが、療育スペースはフラットになっている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	1		・ミーティングによる共通理解のもとに全職員が目標設定と振り返りができている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2		・毎年アンケートを実施し、その結果を参考に改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			・ホームページ掲載に加え、書面でも保護者への配布を行っている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	1	3	・外部よりの指摘は各自認識し改善に繋げている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			・定期的に研修を行っている。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			・毎年、保護者にはアセスメントを更新をお願いしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		・更新したアセスメントをもとに毎日の子どもの状況も考慮し、全職員で尽力している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		・運動療育の指導を受けながら、職員でミーティングをし立案している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		・研修で学んだことを取り入れつつ、豊富な内容になるようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1		・平日では出来ない事を、休日や長期休暇を利用して設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	1		・子どもの様子を見て、必要であれば、静養室等を利用し個別での対応をしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		・毎日ミーティングを行い、その日の記録を残している。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1		・気付きや報告等あれば、記録に残し、共通理解をするよう努める。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			・提供内容記録を徹底し、計画書に沿って支援を行う。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			・定期的にモニタリングを行い見直しを行う。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	4	1		・毎月配布されている資料をもとに支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5			・定期的に、相談事業所と共に児童の様子を見て助言を頂いている。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5			・学校や家庭との連絡は、ノートや送迎時の会話を通じて情報共有をしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5			・投薬依頼書を記入、提出して頂いている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		1	4	・保育所等での情報共有はなかなかできていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2		2	・まだ卒業生はいないが、卒業生に対しては、今後資料提供ができる。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5			・職員が受講している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4		1	・支援学校や普通学校に通学する児童と接することが多くもたれている。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している			5	・今後は積極的に参加し、地域との交流を深めていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1		・日頃から職員同士で意識して話し合いをしたりしている。 ・ペアレントトレーニングについて研修等の告知をするべき。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4		1	・数人の保護者には行えている。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			・契約時に丁寧に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			・送迎時や来所時に保護者とのコミュニケーションを図り、その中で助言や支援が必要となれば対応する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			5	・現時点では保護者からの要望が無く、それぞれの家庭の意見を汲み取り企画するべきであると思っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			・苦情があった場合は記録を残し、職員同士で話し合い、把握、改善を徹底するようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			・毎月お便りを作成、配布している。
	35	個人情報に十分注意している	5			・破棄する際はシュレッダーにかけ、保管の際は書庫に保管し施錠している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			・FC研修等を職員全員が目を通し、ミーティングでも話し合い、配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			5	・現時点では行えていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5			・保護者や児童も確認できるように掲示している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			・年に2回の避難訓練を実施し、児童もともに参加する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			・定期的に研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			・身体拘束の必要性は、他害や自傷行為のある児童に対しては支援計画に記載している。その上で対応する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			・保護者からの情報提供を受け、最善を尽くしている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			・ヒヤリハットの事例があった場合に即時記録し、職員間で話し合い対策を練る。	